

新入生に訴える!

新入生として訴える。我々がこの立命館大学に入学してよりこの方、僕等、
各指の一つ一つもたらしたものは何だ、そのどころか、
座席に僕等は正當に干渉を蒙り、その一環、合格、入学した筈であつた。一
国家権力、運動隊に守られた入試であり、そして余りにモラルな試験問題であ
り、又余りにも今年の受験生、即ち僕等は、被害者意識に陥り、又も仁義ない特
殊々たる、うろまふにけしむべきもの、たにもかからず、
は断じてもその正當性に厚道、を、再び正當なる被害者意識、支拂のオラス
化、或いは、
だ。そして、僕等自身も被害者意識によつて、
、新入生視点を視かして、現在の大学が、
心ある諸君ならば、現在の大学が、
「票」を排除第一歩と片付けられるよう注意せよ、
解すべきことあると考へるが、
に斗つたの小ま、
田澤庵を巡る、
似て衝動によつて、
をけることをしなさい、
的だ、見出しが、
のような、
二十日、
替り、
新入生

《向うの心》

僕らにとつて入試とは屈辱の女協ではな
かつたか。そしてそのように入試以後に、
行われようとしている入学式とは一体
何なのか。大学とは何か。授業とは何か。
学内とは何なのか。

一九六九年四月十七日
新入生有志